

144号

5月例会のお知らせ

日時： 5月20日（金曜日） 19時30分～21時30分

場所： まず府中町屋倶楽部へ集合(19時20分集合)

自動車に分乗していきます。

行き先 武生市瓜生町 28-16 (0778-24-5848)

内容： 「怪奇骨董音楽館」見学

お話 「年経るも癒えるめどなし骨董病」

館長 三田村 善衛 氏（武生ルネサンス会員）

注意事項：見学者は20名に限定しますので、早めに申し込みをして下さい。
(申し込み先：0778-23-1834 三木)

4月の例会で村国山を散策してから丁度1ヶ月が経ちました。コブシと桜の目立った山肌は、さまざまな色調のみどりで覆われた山になり、今は「山滴る」という表現がぴったりの状態になっております。今年も早5月になってしまいました。が、考えて見ますと、1月例会は麦酒と焼酎の闘酒会。2月はワイン部門の闘酒会。3月はまちなか博物館見学の後懇親会。4月は村国山散策の後花見。と、ずっと飲んだり食べたりばかりして楽しい時間を共有してきました。そして6月はまたシーズンに入る鮎を食べる会がすでに予定されております。で、今月はルネサンスらしい(?) 例会を持つことにしましたのでご参加下さい。

今回見学させていただく建物は、本来館長一人が楽しむように設計されておりますので、20名以上の入館は無理かと思われず。

館長からは次のような一札が届いておりますので、一応お伝えしておきます。

「お願い： 禁酒 禁煙(館外も) 触らず盗らず 値踏みせず 撮影は可 20名限定 ただし甘いもの持参者には裏口入館可 若いうるさいギャルよりはしっとり熟女を求む 和服歓迎」

ここで館長についてその一端をご紹介します。ふと気がついたのですが、氏が特に好んでおられ

るものにはなぜか丸いものが多いんです。レコード、瀬戸皿(石皿、馬の目皿、行灯皿、絵瀬戸皿)、甘いもの(大福餅、牡丹餅、とりわけ節句餅)、多分隠語の「まる」もお好きかも。

氏が平成2年に上梓なさった『怪奇骨董音楽箱』は何度読んでも面白い本ですが、その冒頭に「ところで筆者は、夜、何かにつけてうるさい家族どもが寝静まるのを待ってから、あれこれプライベートな、しかもライフワーク的な生活を始めるわけであります。」と、書いておられますが、本業以外はまさに「独楽」の時間を過ごしておられるようです。幸田露伴の小説『骨董』に、「人間は食欲、出世欲、物欲ばかりで生きているが、これは犬猫並で、骨董好きとなれば一歩進んで人間らしいと考えてよい」という件がありますが、氏はこの「人間らしさ」がとびっきりで、いつまで経ってもその「好き」は昂じるばかり。しかも最近ではインターネットオークションにまで手を出しておられるとのことですので、今回はその辺の心境について語っていただきます。

武生ルネサンスのホームページに月に一人のペースで、会員のリレーエッセーを載せております。3月4月分を同封します。

平成17年度会費未納入の方はお願いします。